

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 60
2021.4

TOPICS

1

令和3年度岡山大学入学式及び大学院入学式、 第4回金光賞授賞式を開催



本学は4月2日、入学式及び、研究や国際活動等で顕著な成果を上げた学生に贈る「金光賞」の第4回授賞式を創立五十周年記念館金光ホールで挙行了しました。今年度は、感染リスクを考慮して、新入生代表者と学内関係者のみの出席とし、式典の様子は、YouTubeでライブ配信も行いました。榎野学長は、学部・大学院生ら計3,397人の新入生に向け、「失敗を恐れず新たな価値創造にチャレンジして頂きたい」と新入生を激励。新入生を代表して、薬学部の廣井真温さんが宣誓し、「これから仲間と共に切磋琢磨し、学んでいけることを楽しみにしています」と述べました。

入学式に続けて行った金光賞授賞式では、受賞者21人の中から代表2人が出席。榎野博史学長が2人に表彰状と顕彰金目録を授与しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10142.html

TOPICS

2

岡山大学文明動態学研究所開所式を挙

本学は令和3年4月、4番目の研究所となる岡山大学文明動態学研究所を新設し、4月14日開所式を挙行了しました。開所式には榎野博史学長、高橋香代理事(企画・評価・総務担当)、松本直子文明動態学研究所長ら教職員約20人が出席しました。

榎野学長は「多様なパートナーシップで文理横断的な研究の発展、国際的人材交流、地域社会との連携が促進されることを期待しています」、松本研究所長は「さまざまな分野の連携により、課題解決の糸口が見えてくる。文明動態学という新しい学問を全国、そして世界に広げていきたい」と話しました。

本研究所では、考古学、歴史学、人類学、経済学、社会学、哲学等の人文社会科学を核とし、本学および国内外諸機関の地質学、生物学、化学、物理学、神経科学、情報科学等の研究者との緊密な連携のもとに人類文明の来し方・行く末を探求します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10197.html

Pick up!

環境理工学部「蛍プロジェクト」の一環で、学内ビオトープ池に蛍の幼虫を放流



環境理工学部は3月31日、学内水循環施設(ビオトープ池:誕生池)で、蛍の幼虫の放流を行いました。本イベントは、2014年から同学部が行う「学内水循環施設を活用した蛍の生息地創成プロジェクト(通称:蛍プロジェクト)」の一環で、幼虫の放流は2016年から毎年行ってきました。蛍は水・緑・土等の自然環境が評価できる「指標生物」です。蛍の生息地をキャンパス内に整備し、サステナブルな生息地の維持管理に向けて、学生たちが自ら実験や実証を試行錯誤しながら継続しており、環境理工学部が推進してきたESDに貢献する活動でもあります。この日ビオトープ池で、難波徳郎環境理工学部長や蛍プロジェクトメンバーの学生らが見守る中、榎野博史学長が蛍水路へ蛍の幼虫約20匹を放流しました。順調に生育すれば、5月頃に蛍がビオトープ池を飛翔する姿を見ることができます。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10160.html

TOPICS

3

THEインパクトランキング2021が公表、 総合ランキングで世界トップ200位以内、国内同列1位にランクされました

イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education」による「THEインパクトランキング2021」が、4月21日に発表されました。岡山大学は、エントリーした5つのゴール(SDG3 すべての人に健康と福祉を、SDG9 産業と技術革新の基盤をつくろう、SDG11 住み続けられるまちづくりを、SDG16 平和と公正をすべての人に、SDG17 パートナシップで目標を達成しよう)のすべてでランクインしました。総合ランキングでは、国内6大学(広島大学、北海道大学、京都大学、東北大学、東京大学、筑波大学)と並んで、世界トップ200位内(101-200位)、国内同列1位にランクされました。今後もSDGs推進研究大学として、「共育・共創」でSDGsの取り組みを進めて参ります。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10228.html



TOPICS

4

エシカルファッションの普及によるSDGs達成への貢献に向け、 株式会社アン・ドゥーと連携・協力に関する協定を締結



本学は4月22日、株式会社アン・ドゥーと、共同研究や人材育成などを通じSDGsの達成に貢献することを目指し、連携・協力に関する協定を締結しました。

近年、エシカル(倫理的な)消費の意識が広がり、アパレル業界においても、環境、労働、社会問題に配慮し、良識にかなった素材選定や購入、生産、販売を行う「エシカルファッション」に注目が集まっています。同社は、SDGsに積極的に取り組み、地域社会に貢献することを目指していることから、エシカルファッションの普及を通じてSDGs達成に貢献するため、「SDGs推進研究大学」をビジョンとする本学と連携することとなりました。

今後は本協定に基づき、エコ素材の環境負荷低減効果の数値化・人体に対する安全性の証明などの共同研究や、同社の開発者と学生など若い世代がエシカルファッションに関する新商品や流通チャネルについてアイデアを出し合うアイデアソンを開催などを行います。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10229.html

PRESS
RELEASE

岡山と世界を繋ぐ「無腸動物」の不思議！ ～ナイクイムチョウウズムシの環境応答機構の解明～

岡山大学学術研究院教育学域(理科教育)の安藤元紀教授と大学院環境生命科学科博士課程の坂上登亮大学院生の研究グループは、無腸動物に備わる平衡胞と神経系の同時三次元的解析を可能とする新しい手法を開発し、本種の重力感知に関わる刺激受容応答機構の一端を明らかにしました。これらの研究成果は4月9日、国際誌「Zoomorphology」(Springer Nature)の電子版に掲載されました。

無腸動物は左右相称動物でありながら、脳・肛門・体腔を欠損する体制を有し、系統進化的に注目を集めています。本研究で用いた無腸動物の一種「ナイクイムチョウウズムシ」は瀬戸内海沿岸の限られた自然海岸に生息しています。一般にはほとんど知られていません。本研究では、本種に備わる重力走行獲得過程および平衡胞(重力感知器官)とそれを制御する神経系との関係を調べ、孵化後発達段階において重力走行性能が獲得されること、その間平衡胞の構成細胞が変化すること、およびこれまでに報告の無い神経経路が存在することを明らかにしました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id825.html

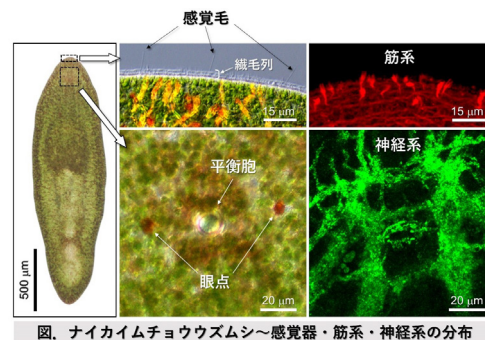


図. ナイクイムチョウウズムシ～感覚器・筋系・神経系の分布

